

□特 集

平成 30 年人口動態統計（概数）の概要

合計特殊出生率が 0.02 ポイント低下

—全国は 0.01 ポイント低下—

老衰による死亡率が上昇

—依然として悪性新生物による死亡が、総死亡数に占める割合の 28.9%を占める—

自然減少数は 8 千人を超える

—自然増減率は 0.3 ポイント低下、依然として自然減少が続く—

府健康福祉総務課

はじめに

人口動態統計は、出生・死亡・婚姻・離婚及び死産の 5 種類の「人口動態事象」について、その実態を把握し、人口及び厚生労働行政施策の基礎資料を得ることを目的として実施されています。

出生、死亡、婚姻及び離婚については、「戸籍法」による届出書から、死産については、「死産の届出に関する規程」による届書等から、その届出を受けた市区町村長が調査票を作成します。

これらの調査票は、保健所長、都道府県を經由し、厚生労働省に提出されます。

厚生労働省では、これらの調査票の毎月分及び年間分を集計して、人口動態統計月報（概数）、人口動態統計年報として公表しています。

この概要は、平成 30 年 1 月 1 日から 12 月 31 日までの間における京都府分について取りまとめたもので、数値は概数です。

1 出 生

—出生数は前年より減少、

出生率は 0.2 ポイント低下—

平成 30 年の出生数は、1 万 7909 人で前年より 612 人減少しました。

出生率（人口千対）は 7.1 で、前年に比べ 0.2 ポイント低下しました。

出生数の推移をみると、第 1 次ベビーブーム期（昭和 22 年～ 24 年）の団塊の世代が誕生した時期は 5 万人台で推移していましたが、その後急激に減少し、昭和 32 年には 2 万 6688 人まで減少しました。その後、昭和 41 年（ひのえうまの年）を除いて増加に転じ、昭和 48 年には第 2 次ベビーブーム期のピークを迎えましたが、以後減少傾向が続いています。（表 1、図 1）

表 1 人口動態総覧、対前年比較

	実 数					率		率（全国）	
	平成 30 年	平成 29 年	増減	増減割合 (%)	平均発生間隔	平成 30 年	平成 29 年	平成 30 年	平成 29 年
出 生	17,909	18,521	△ 612	△ 3.3	26 分 45 秒	7.1	7.3	7.4	7.6
死 亡	26,655	26,430	225	0.9	20 分 38 秒	10.5	10.4	11.0	10.8
（乳児死亡）	31	27	4	14.8	175 時間 12 分	1.7	1.5	1.9	1.9
（新生児死亡）	13	11	2	18.2	282 時間 34 分	0.7	0.6	0.9	0.9
自 然 増 減	△ 8,746	△ 7,909	△ 837	10.6	…	△ 3.4	△ 3.1	△ 3.6	△ 3.2
死 産	362	355	7	2.0	20 時間 30 分	19.8	18.8	20.9	21.1
婚 姻	11,491	11,875	△ 384	△ 3.2	42 分 16 秒	4.5	4.7	4.7	4.9
離 婚	4,047	4,104	△ 57	△ 1.4	1 時間 58 分	1.59	1.61	1.68	1.70

注 1 平成 29 年は確定数

2 出生・死亡・自然増減・婚姻・離婚率は日本人人口千対、乳児・新生児死亡率は出生千対、死産率は出産（出生＋死産）千対

3 算出に用いた京都府の人口は、平成 30 年 = 2,539,000 人（平成 30 年 10 月 1 日現在・都道府県・男女別人口（日本人人口）

4 自然増減：出生数から死亡数を減じたもの

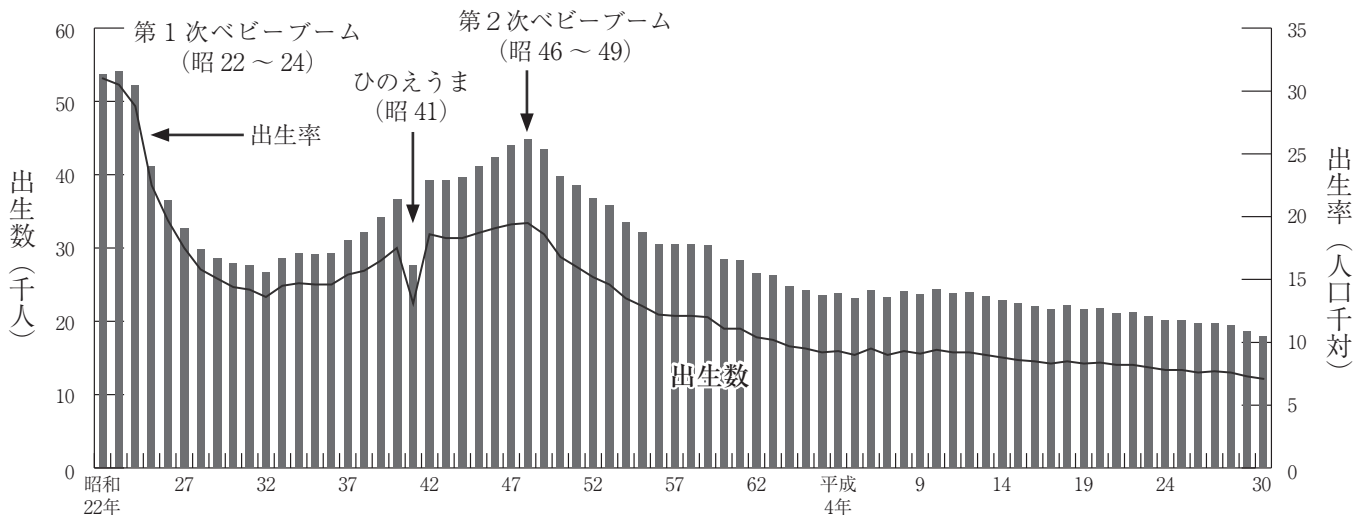
5 乳児死亡：生後 1 年未満の死亡数

6 新生児死亡：乳児死亡のうち、生後 4 週未満の死亡数

7 死産：妊娠満 12 週以後の死産の出産

8 平均発生間隔：1 件当たりの事象発生が、どれだけの時間間隔をもって発生したのかを表したもの

図1 出生数・出生率の年次推移



合計特殊出生率は 1.29

—前年より 0.02 ポイント低下
全国は 0.01 ポイント低下—

平成 30 年の出生率を母の年齢階級別にみると、最も出生率が高かったのは、30～34 歳の層で、出生率は 98.4（出生数 6594 人）となりました。

30～34 歳の出生率は、昭和 53 年以降上昇傾向にあり、平成 12 年には、25～29 歳の層を上回り、その後も出生数・率とも第 1 位となっています。

第 2 位は、25～29 歳の層で、出生率は 67.1（出生数 4295 人）となりました。25～29 歳は昭和 47 年（出生率 213.8）をピークに低下傾向が続いています。

第 3 位は 35～39 歳の層で、出生率 58.6（出生数 4335 人）となり、上昇傾向が続いています。

第 4 位は 20～24 歳の層で出生率 18.9（出生数 1395 人）となり、出生率については、3 年連続で 20 を下回りました。（図 2）

図2 母の年齢階級別出生率の年次推移(人口千対)

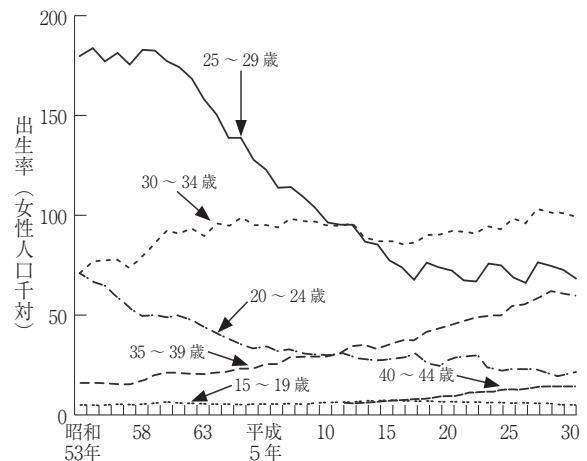


表2 合計特殊出生率の推移

年次	京都府	全国
昭和 40 年※	2.02	2.14
45 ※	2.02	2.13
50 ※	1.81	1.91
55 ※	1.67	1.75
60 ※	1.68	1.76
平成 2 年※	1.48	1.54
7 ※	1.33	1.42
12 ※	1.28	1.36
17 ※	1.18	1.26
18	1.19	1.32
19	1.18	1.34
20	1.22	1.37
21	1.20	1.37
22 ※	1.28	1.39
23	1.25	1.39
24	1.23	1.41
25	1.26	1.43
26	1.24	1.42
27 ※	1.35	1.45
28	1.34	1.44
29	1.31	1.43
30	1.29	1.42

※は国勢調査年

合計特殊出生率とは、その年の 15 歳から 49 歳までの女性の年齢別出生率を合計した値で、その年の女性の年齢別出生傾向が将来も変わらないと仮定した場合、1 人の女性が一生の間に生む平均の子供の数に相当します。

2 死亡

—死亡数は増加、死亡率は0.1ポイント上昇—

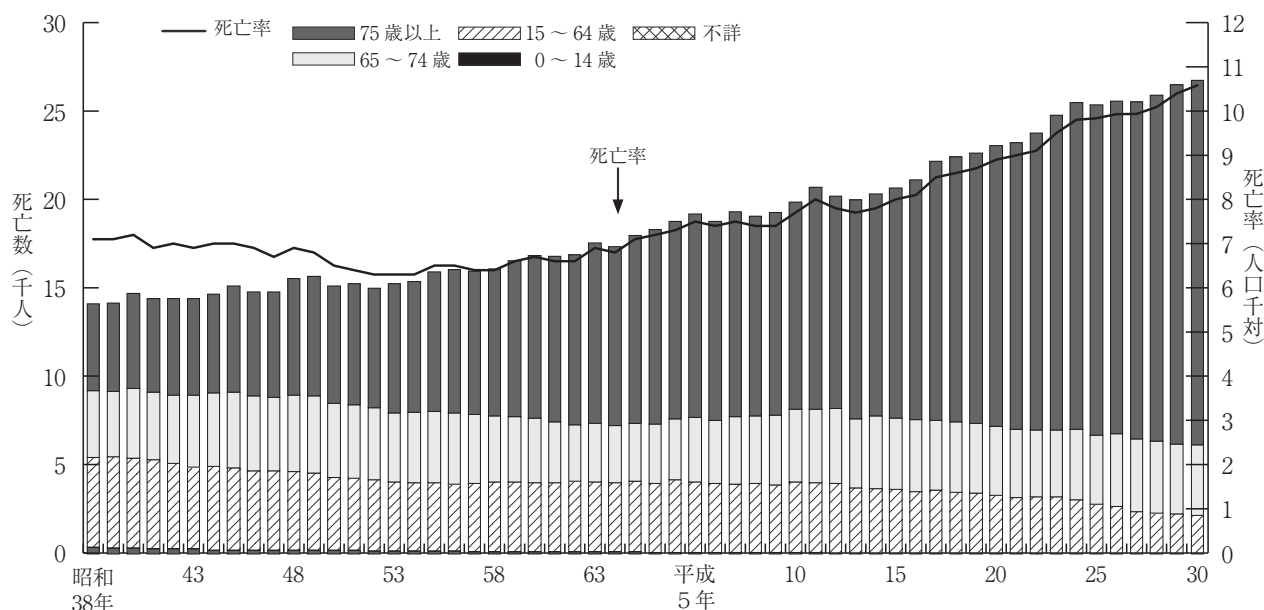
平成30年の死亡数は2万6655人で、前年より225人増加し、死亡率（人口千対）は10.5と10を上回りました。（表1、図3）

死亡数の推移をみると、昭和44年以降1万5千人～1万9千人台で推移していましたが、平成11年に2万人台となって以後、ゆるやかな増加傾向が続いています。

年齢別死亡数では、15～64歳の世代は前年を下回りましたが、それ以外の世代は増加しました。

死亡率は昭和35年（死亡率7.7）以降低下傾向にあり、52～54年に3年連続6.3と戦後最低を記録した後、ゆるやかな上昇に転じ、平成13年（同7.7）以降は上昇傾向が顕著になり、平成30年は10.5で過去最高となりました。（図3）

図3 死亡数・死亡率の年次推移



3 死因

—老衰による死亡率が上昇—

死因順位の第1位は悪性新生物（がん）で、平成30年の死亡数は7708人で、前年より61人増加、死亡率（人口10万対）は303.6で、前年より3.8ポイント増加しました。悪性新生物による死亡が総死亡数に占める割合は28.9%でした。

第2位は心疾患の4441人で、前年より138人減少、死亡率は174.9で、前年より4.6ポイント減少しました。

第3位は老衰で、平成30年の死亡数は前年より250人増加の2121人、死亡率は10.2ポイント増加し、83.5となりました。

第4位は脳血管疾患の2034人で、死亡率は80.1となり、前年より1.1ポイント上昇しました。

第5位は肺炎で、死亡数は1610人、第6位は不慮の事故で、死亡数は580人でした。自殺は、死亡数が338人となり、前年より22人減少しま

した。自殺死亡率は13.3でした。

また、悪性新生物、心疾患及び脳血管疾患の3大生活習慣病による死亡が総死亡数に占める割合は、53.2%となりました。（表3、図4）

—悪性新生物（がん）部位別トップは「肺」—

悪性新生物（がん）の主な部位別死亡率（人口10万対）をみると、第1位は前年に引き続き「肺」で死亡率は65.0、前年より4.6ポイント上昇しました。

第2位は平成25年から引き続き「大腸」で死亡率は40.9、前年より1ポイント低下しました。

第3位は「胃」で死亡率は36.0で前年より0.4ポイント上昇しました。第4位は「肝」で、死亡率は21.8、前年より0.2ポイント低下しました。

また、肺、大腸、胃の上位3疾患で悪性新生物死因総数の46.7%を占めています。（図5）

表3 死因順位

死因順位	平成30年	死亡数(人)	死亡率	死亡総数に占める割合(%)	平成29年	死亡数(人)	死亡率	全国(30年)	死亡数(人)	死亡率
第1位	悪性新生物	7,708	303.6	28.9	悪性新生物	7,647	299.8	悪性新生物	373,547	300.7
2	心疾患	4,441	174.9	16.7	心疾患	4,579	179.5	心疾患	208,210	167.6
3	老衰	2,121	83.5	8.0	脳血管疾患	2,016	79.0	老衰	109,606	88.2
4	脳血管疾患	2,034	80.1	7.6	老衰	1,871	73.3	脳血管疾患	108,165	87.1
5	肺炎	1,610	63.4	6.0	肺炎	1,656	64.9	肺炎	94,654	76.2
6	不慮の事故	580	22.8	2.2	不慮の事故	607	23.8	不慮の事故	41,213	33.2
7	腎不全	485	19.1	1.8	血管性及び詳細不明の認知症	453	17.8	腎不全	26,080	21.0
8	アルツハイマー病	428	16.9	1.6	腎不全	441	17.3	血管性及び詳細不明の認知症	20,526	16.5
9	血管性及び詳細不明の認知症	413	16.3	1.5	アルツハイマー病	419	16.4	自殺	20,032	16.1
10	慢性閉塞性肺疾患	390	15.4	1.5	慢性閉塞性肺疾患	413	16.2	アルツハイマー病	19,095	15.4

注) 平成29年は確定数
死亡率は人口10万対である。

図4 主要死因別死亡率の年次推移(人口10万対)

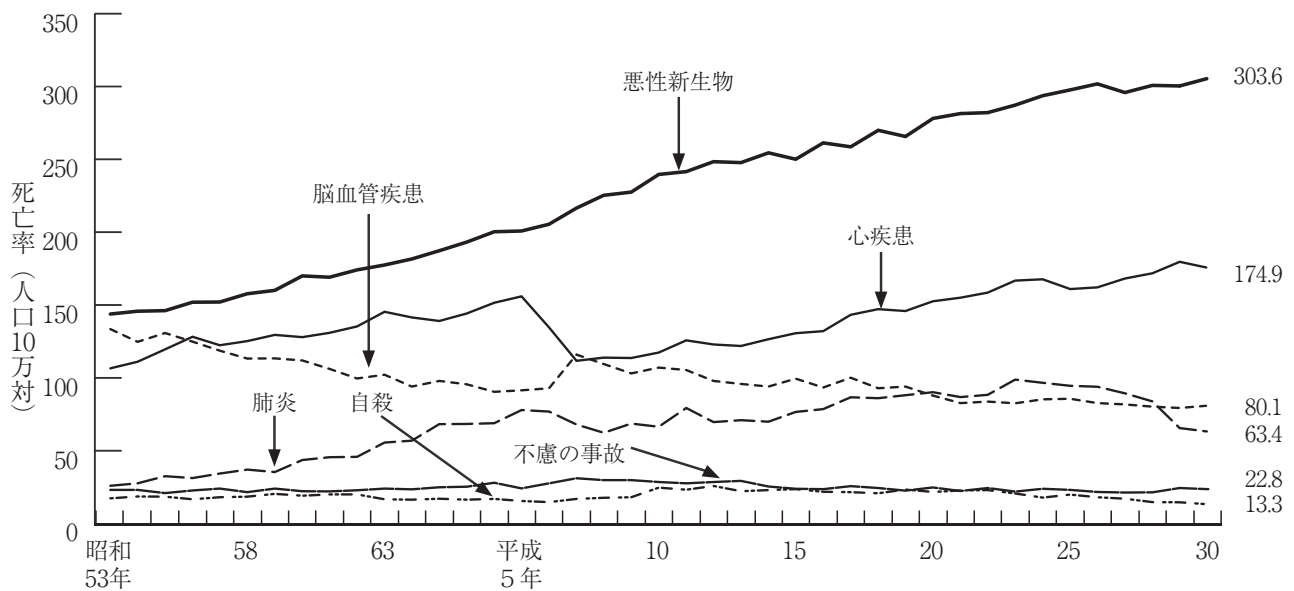
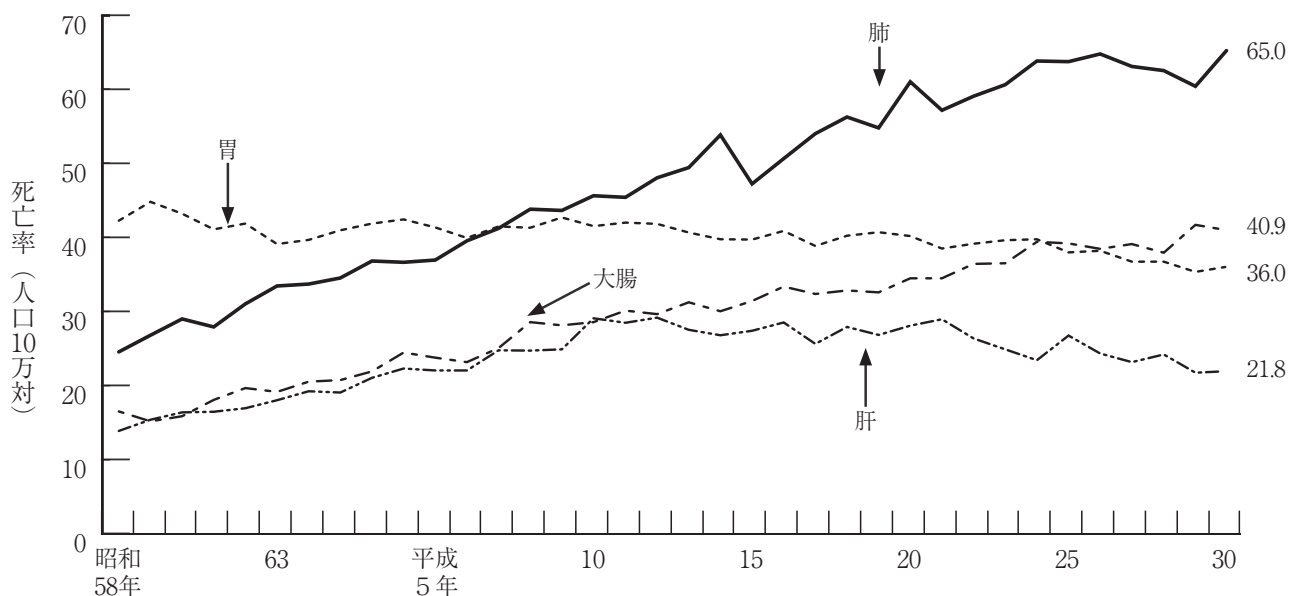


図5 悪性新生物(がん)の主な部位別死亡率の年次推移(人口10万対)



男女別死亡率をみると、男の死亡率（人口10万対）は、「肺」が平成3年以降第1位で、30年は91.3となり、前年より2.7ポイント上昇しました。

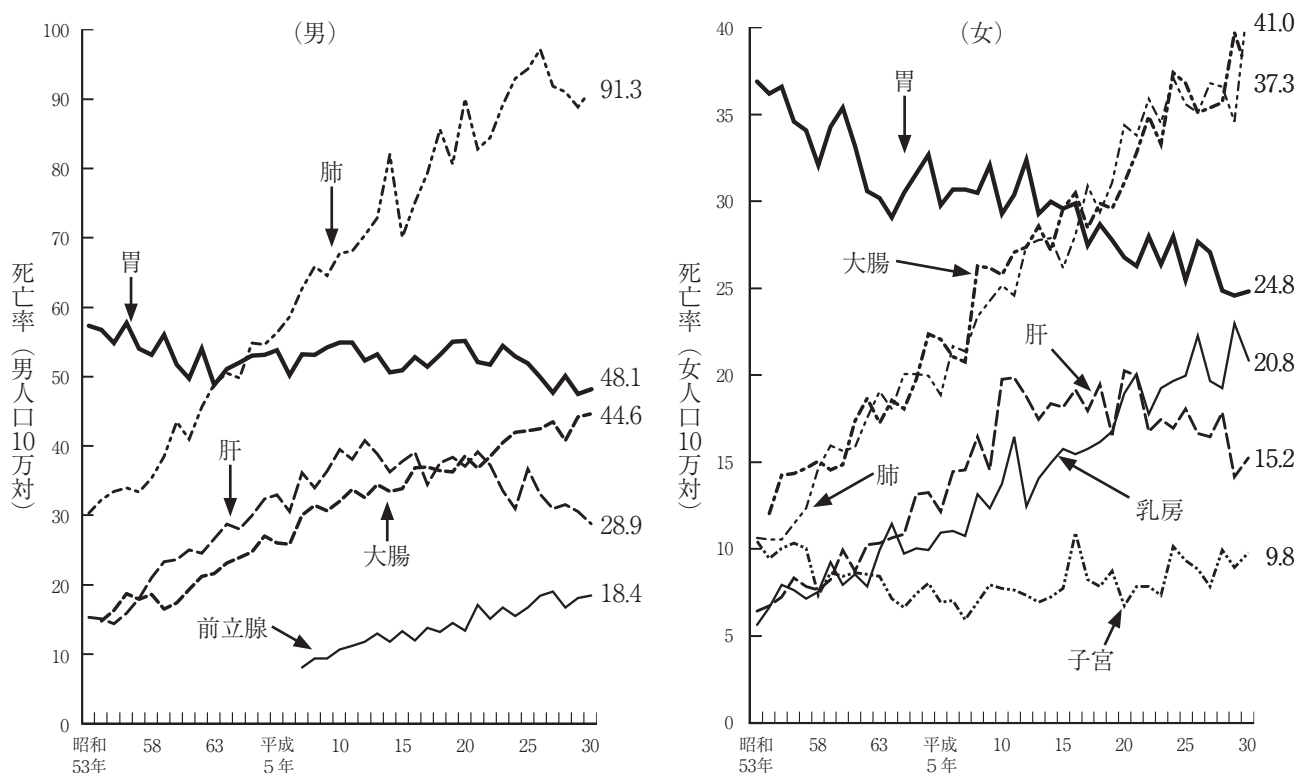
第2位は「胃」で48.1と、前年より0.6ポイント上昇しました。

第3位は「大腸」で44.6、第4位は「肝」で28.9となりました。

女の死亡率（人口10万対）は、「肺」が41.0で第1位で、前年より6.4ポイント上昇しました。第2位は「大腸」で37.3、第3位は「胃」で24.8となりました。

「乳房」は20.8で前年より2.2ポイント低下し、「子宮」は9.8で前年より0.8ポイント上昇しました。（図6）

図6 悪性新生物（がん）の性別・主な部位別死亡率の年次推移（人口10万対）



- 注1 文中、図5及び図6において肺とは、気管、気管支及び肺の悪性新生物である。
 2 文中、図5及び図6において大腸とは、結腸と直腸S状結腸移行部及び直腸の悪性新生物である。
 3 文中、図5及び図6において肝とは、肝及び肝内胆管の悪性新生物である。
 4 図6において大腸の昭和53年以前の数値は、旧厚生省で集計されていないため不明である。
 5 図6において前立腺の平成7年以前の数値は、旧厚生省で集計されていないため不明である。

4 乳児死亡・新生児死亡

一乳児死亡率は0.2ポイント上昇、

新生児死亡率は0.1ポイント上昇一

平成30年の乳児死亡数は31人で、前年より4人増加し、乳児死亡率（出生千対）は1.7で、前年より0.2ポイント上昇しました。

新生児死亡数は13人で、前年より2人増加し、新生児死亡率（出生千対）は0.7で、前年より0.1ポイント上昇しました。（表1）

5 自然増減

一自然減少数は8千人を超える一

平成30年の出生数から死亡数を減じた自然増減数は、マイナス8746人となり、依然として自然減少が続いています。自然増減率（人口千対）はマイナス3.4で、前年より0.3ポイント低下しました。（表1）

6 死 産

一死産率は 1.0 ポイント上昇一

平成 30 年の死産数は 362 胎で前年より 7 胎増加、死産率（出産千対）は 19.8 と、前年より 1.0 ポイント上昇しました。（表 1）

7 婚 姻

一平均初婚年齢 夫は 31.5 歳 妻は 30.0 歳

男女とも晩婚化進む一

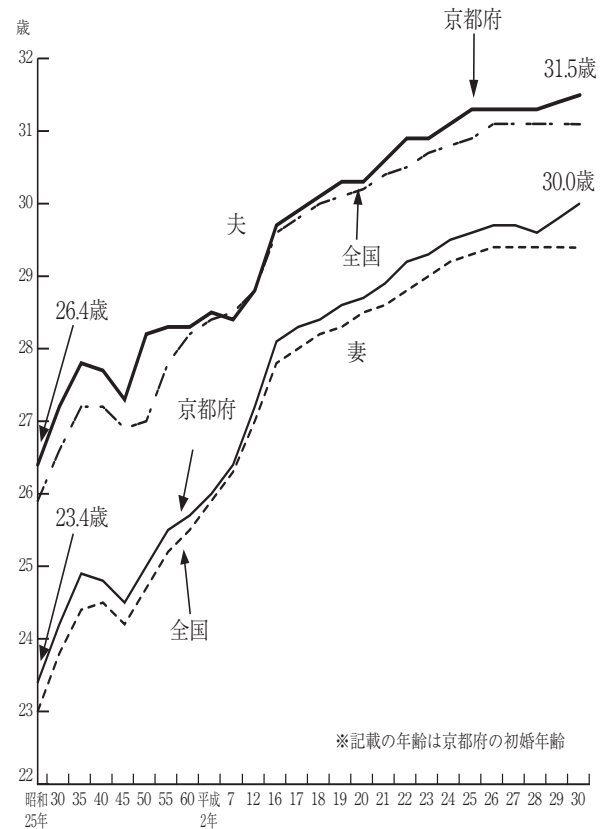
平成 30 年の婚姻件数は 1 万 1491 組で前年より 384 組減少し、婚姻率（人口千対）は 4.5 で、前年より 0.2 ポイント低下しました。（表 1）

また、平均初婚年齢は、夫 31.5 歳、妻 30.0 歳で、夫は 0.1 歳、妻は 0.2 歳上昇しています。

平均初婚年齢の推移をみると、昭和 25 年以降は上昇傾向が続き、昭和 25 年（夫 = 26.4 歳、妻 = 23.4 歳）と比べると、夫は 5.1 歳、妻は 6.6 歳上昇しており、男女とも晩婚化が進んでいます。

（図 7）

図 7 平均初婚年齢の推移



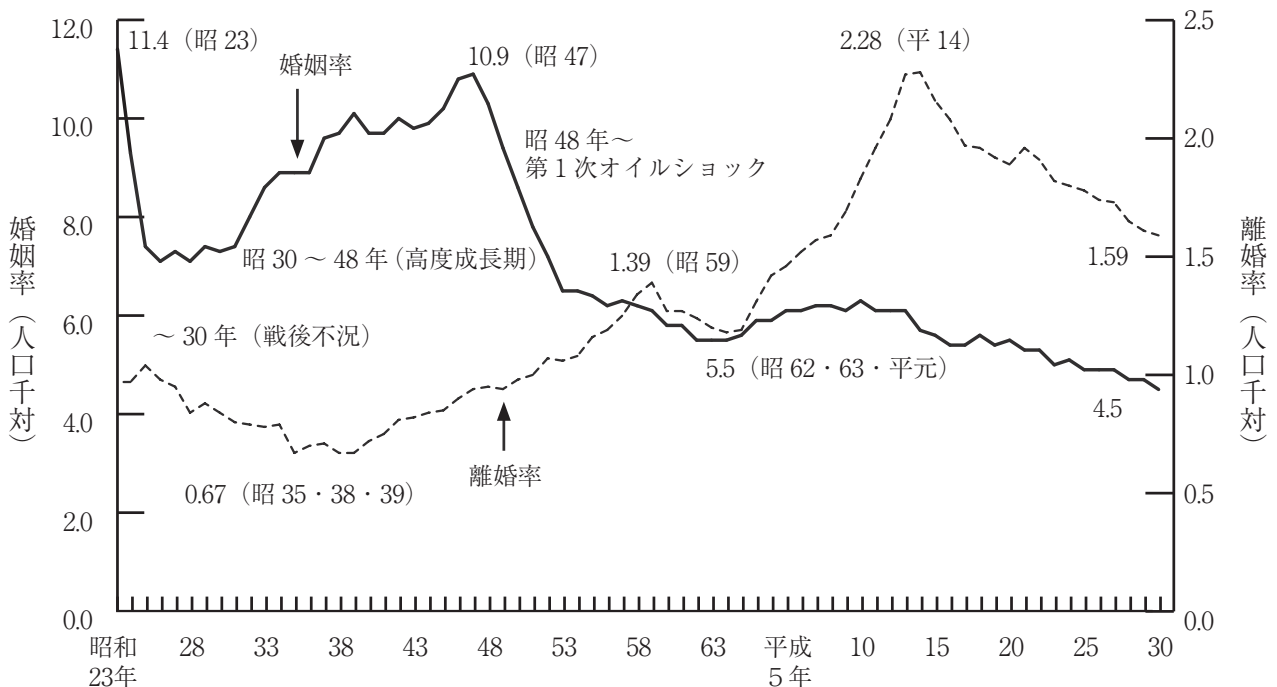
8 離 婚

一離婚件数、離婚率ともに減少一

平成 30 年の離婚件数は 4047 組で、前年より 57 組減少し、離婚率（人口千対）は 1.59 となり、前年より 0.02 ポイント低下しました。（表 1）

離婚率の推移をみると、昭和 35 年、38 年、39 年に戦後最低（離婚率 0.67）となった後上昇し、59 年以降低下していましたが、平成 2 年から再び上昇に転じ、平成 14 年には過去最高の 2.28 を記録し、その後は低下傾向が続いています。（図 8）

図 8 婚姻率・離婚率の年次推移（人口千対）



第1表 人口動態（概数）保健所、市町村別（平成30年）

区 分	出生数			死亡数			乳 児 死 亡 数	新 生 児 死 亡 数	死 産 数	婚 件	姻 数	離 件	婚 数	自 然 増 加 数
	総数	男	女	総数	男	女								
総 数	17,909	9,188	8,721	26,655	13,517	13,138	31	13	362	11,491	4,047	△8,746		
京 都 市	9,989	5,132	4,857	14,601	7,334	7,267	19	6	202	7,184	2,369	△4,612		
その他の市町村	7,920	4,056	3,864	12,054	6,183	5,871	12	7	160	4,307	1,678	△4,134		
乙 訓 保 健 所	1,343	705	638	1,287	662	625	2	—	18	647	187	56		
向 日 市	510	258	252	484	247	237	—	—	10	245	77	26		
長 岡 京 市	669	361	308	670	341	329	2	—	8	318	87	△1		
大 山 崎 町	164	86	78	133	74	59	—	—	—	84	23	31		
山 城 北 保 健 所	2,848	1,442	1,406	4,168	2,241	1,927	3	2	62	1,591	652	△1,320		
宇 治 市	1,203	604	599	1,762	963	799	2	1	26	702	284	△559		
城 陽 市	472	238	234	865	460	405	1	1	10	279	92	△393		
八 幡 市	432	239	193	668	367	301	—	—	4	268	131	△236		
京 田 辺 市	547	266	281	505	269	236	—	—	14	234	90	42		
久 御 山 町	109	55	54	144	80	64	—	—	3	58	29	△35		
井 手 町	31	13	18	112	50	62	—	—	2	24	16	△81		
宇 治 田 原 町	54	27	27	112	52	60	—	—	3	26	10	△58		
山 城 南 保 健 所	925	468	457	955	503	452	2	1	18	458	182	△30		
木 津 川 市	659	328	331	568	296	272	1	—	11	305	117	91		
笠 置 町	1	1	—	31	22	9	—	—	—	1	2	△30		
和 束 町	13	7	6	60	33	27	—	—	—	16	7	△47		
精 華 町	243	128	115	251	125	126	1	1	7	129	50	△8		
南 山 城 村	9	4	5	45	27	18	—	—	—	7	6	△36		
南 丹 保 健 所	825	448	377	1,543	749	794	—	—	20	449	203	△718		
亀 岡 市	567	299	268	836	417	419	—	—	15	286	145	△269		
南 丹 市	195	113	82	466	210	256	—	—	3	123	46	46		
京 丹 波 町	63	36	27	241	122	119	—	—	2	40	12	12		
中 丹 西 保 健 所	662	347	315	990	480	510	—	—	11	370	137	△328		
福 知 山 市	662	347	315	990	480	510	—	—	11	370	137	△328		
中 丹 東 保 健 所	811	385	426	1,572	777	795	4	3	16	491	185	△761		
舞 鶴 市	590	275	315	1,067	530	537	2	1	12	368	138	△477		
綾 部 市	221	110	111	505	247	258	2	2	4	123	47	△284		
丹 後 保 健 所	506	261	245	1,539	771	768	1	1	15	301	132	△1,033		
宮 津 市	92	51	41	334	171	163	—	—	4	62	21	△242		
京 丹 後 市	282	143	139	844	427	417	1	1	9	179	76	△562		
伊 根 町	15	8	7	39	20	19	—	—	—	6	—	△24		
与 謝 野 町	117	59	58	322	153	169	—	—	2	54	35	△205		

第2表 人口動態統計 実数及び率の年次推移

区分	出生		死亡		乳児死亡		死産		婚姻		離婚		自然増加	
	実数	率 (人口千対)	実数	率 (人口千対)	実数	率 (出生千対)	実数	率 (出産千対)	実数	率 (人口千対)	実数	率 (人口千対)	実数	率 (人口千対)
昭和22年	53,828	31.0	25,686	14.8	3,705	68.8	2,429	43.2	18,294	10.5	1,750	1.01	28,142	16.2
23	54,287	30.5	19,892	11.2	2,866	52.8	2,920	51.0	20,285	11.4	1,727	0.97	34,395	19.3
24	52,248	28.8	19,638	10.8	2,058	39.4	4,313	76.2	16,916	9.3	1,765	0.97	32,610	18.0
25	41,236	22.5	17,850	9.7	2,079	50.4	4,587	100.1	13,643	7.4	1,903	1.04	23,386	12.8
26	36,493	19.7	16,341	8.8	1,804	49.4	4,452	108.7	13,168	7.1	1,813	0.98	20,152	10.9
27	32,802	17.5	15,417	8.2	1,401	42.7	3,943	107.3	13,705	7.3	1,788	0.95	17,385	9.3
28	29,907	15.8	15,562	8.2	1,237	41.4	3,672	109.4	13,388	7.1	1,591	0.84	14,345	7.6
29	28,717	15.1	14,139	7.4	1,089	37.9	3,516	109.1	14,109	7.4	1,673	0.88	14,578	7.7
30	27,943	14.4	13,797	7.1	909	32.5	3,319	106.2	14,079	7.3	1,630	0.84	14,146	7.3
31	27,724	14.2	15,081	7.7	963	34.7	3,285	105.9	14,488	7.4	1,560	0.80	12,643	6.5
32	26,688	13.6	15,549	7.9	843	31.6	3,234	108.1	15,685	8.0	1,556	0.79	11,139	5.7
33	28,665	14.5	14,356	7.3	811	28.3	3,455	107.6	17,041	8.6	1,535	0.78	14,309	7.2
34	29,282	14.7	14,610	7.3	818	27.9	3,479	106.2	17,651	8.9	1,577	0.79	14,672	7.4
35	29,194	14.6	15,265	7.7	747	25.6	3,356	103.1	17,709	8.9	1,327	0.67	13,929	7.0
36	29,213	14.6	14,866	7.4	746	25.5	3,372	103.5	17,960	8.9	1,410	0.70	14,347	7.1
37	31,129	15.4	15,080	7.4	695	22.3	3,468	100.2	19,459	9.6	1,437	0.71	16,049	7.9
38	32,108	15.7	14,555	7.1	638	19.9	3,399	95.7	19,931	9.7	1,379	0.67	17,553	8.6
39	34,258	16.5	14,613	7.1	612	17.9	3,395	90.2	20,941	10.1	1,396	0.67	19,654	9.5
40	36,703	17.5	15,109	7.2	587	16.0	3,284	82.1	20,310	9.7	1,520	0.72	21,594	10.3
41	27,755	13.1	14,732	6.9	475	17.1	2,858	93.4	20,513	9.7	1,587	0.75	13,023	6.1
42	39,254	18.6	14,813	7.0	573	14.6	2,902	68.8	21,160	10.0	1,718	0.81	24,441	11.6
43	39,240	18.3	14,868	6.9	521	13.3	2,882	68.4	21,098	9.8	1,755	0.82	24,372	11.4
44	39,750	18.3	15,135	7.0	575	14.5	2,813	66.1	21,440	9.9	1,822	0.84	24,615	11.3
45	41,235	18.7	15,577	7.0	481	11.7	2,704	61.5	22,621	10.2	1,871	0.85	35,658	11.6
46	42,413	19.1	15,279	6.9	494	11.6	2,692	59.7	24,143	10.8	2,000	0.90	27,134	12.2
47	44,107	19.4	15,208	6.7	454	10.3	2,535	54.4	24,826	10.9	2,135	0.94	28,899	12.7
48	44,885	19.5	15,995	6.9	478	10.6	2,509	52.9	23,850	10.3	2,201	0.95	28,890	12.5
49	43,438	18.6	15,986	6.8	433	10.0	2,379	51.9	21,851	9.4	2,192	0.94	27,452	11.8
50	39,921	16.8	15,460	6.5	353	8.8	2,192	52.1	20,514	8.6	2,329	0.98	24,461	10.3
51	38,636	16.0	15,544	6.4	344	8.9	2,359	57.5	28,738	7.8	2,401	1.00	23,092	9.6
52	36,870	15.2	15,260	6.3	303	8.2	1,995	51.3	17,507	7.2	2,599	1.07	21,610	8.9
53	35,943	14.6	15,464	6.3	289	8.0	1,810	47.9	16,031	6.5	2,590	1.06	20,479	8.3
54	33,464	13.5	15,553	6.3	240	7.2	1,698	48.3	16,117	6.5	2,661	1.08	17,911	7.2
55	32,139	12.9	16,059	6.5	209	6.5	1,622	48.0	15,916	6.4	2,884	1.16	16,080	6.5
56	30,498	12.2	16,174	6.5	200	6.6	1,662	51.7	15,571	6.2	2,980	1.19	14,324	5.7
57	30,493	12.1	16,059	6.4	194	6.4	1,522	47.5	15,794	6.3	3,134	1.25	14,434	5.7
58	30,627	12.1	16,214	6.4	193	6.3	1,435	44.8	15,776	6.2	3,382	1.34	14,413	5.7
59	30,390	12.0	16,637	6.6	181	6.0	1,325	41.8	15,370	6.1	3,529	1.39	13,753	5.4
60	28,479	11.1	16,942	6.6	143	5.0	1,360	45.6	14,932	5.8	3,248	1.27	11,537	4.5
61	28,358	11.1	16,864	6.6	148	5.2	1,282	43.3	14,839	5.8	3,241	1.27	11,494	4.5
62	26,603	10.4	16,912	6.6	121	4.5	1,252	44.9	14,025	5.5	3,179	1.24	9,691	3.8
63	26,192	10.2	17,608	6.9	135	5.2	1,093	40.1	14,076	5.5	3,071	1.20	8,584	3.4
平成元年	24,855	9.7	17,327	6.8	99	4.0	1,015	39.2	14,026	5.5	3,021	1.18	7,528	2.9
2	24,209	9.5	18,031	7.1	118	4.9	1,039	41.2	14,337	5.6	3,050	1.19	6,178	2.4
3	23,487	9.2	18,331	7.2	111	4.7	947	38.8	15,018	5.9	3,346	1.31	5,156	2.0
4	23,838	9.3	18,822	7.3	129	5.4	919	37.1	15,101	5.9	3,640	1.42	5,016	2.0
5	23,082	9.0	19,202	7.5	125	5.4	826	34.5	15,647	6.1	3,738	1.46	3,880	1.5
6	24,245	9.5	18,821	7.4	122	5.0	838	33.4	15,716	6.1	3,891	1.52	5,424	2.1
7	23,219	9.0	19,321	7.5	97	4.2	777	32.4	15,887	6.2	4,047	1.57	3,898	1.5
8	24,023	9.3	19,068	7.4	95	4.0	748	30.2	16,153	6.2	4,115	1.59	4,955	1.9
9	23,595	9.1	19,239	7.4	91	3.9	701	28.9	15,869	6.1	4,384	1.69	4,356	1.7
10	24,312	9.4	19,868	7.7	79	3.2	736	29.4	16,273	6.3	4,732	1.83	4,444	1.7
11	23,831	9.2	20,690	8.0	95	4.0	699	28.5	15,682	6.1	5,089	1.96	3,141	1.2
12	23,997	9.2	20,233	7.8	78	3.3	694	28.1	15,781	6.1	5,403	2.08	3,763	1.4
13	23,364	9.0	20,027	7.7	60	2.6	698	29.0	15,775	6.1	5,903	2.27	3,336	1.3
14	22,859	8.8	20,320	7.8	68	3.0	702	29.8	14,899	5.7	5,922	2.28	2,539	1.2
15	22,371	8.6	20,669	8.0	67	3.0	664	28.8	14,478	5.6	5,612	2.16	1,702	0.7
16	22,066	8.5	21,126	8.1	63	2.9	721	31.6	14,127	5.4	5,408	2.08	940	0.4
17	21,560	8.3	22,134	8.5	54	2.5	600	27.1	14,030	5.4	5,116	1.97	△574	△0.2
18	22,100	8.5	22,419	8.6	48	2.2	559	24.7	14,477	5.6	5,091	1.96	△319	△0.1
19	21,597	8.3	22,619	8.7	51	2.4	521	23.6	13,978	5.4	4,962	1.92	△1022	△0.4
20	21,842	8.4	23,015	8.9	54	2.5	507	22.7	14,239	5.5	4,877	1.89	△1173	△0.5
21	21,058	8.2	23,191	9.0	44	2.1	432	20.1	13,640	5.3	5,054	1.96	△2133	△0.8
22	21,234	8.2	23,714	9.1	52	2.4	482	22.2	13,664	5.3	4,964	1.91	△2480	△1.0
23	20,707	8.0	24,733	9.5	40	1.9	476	22.5	12,900	5.0	4,713	1.82	△4026	△1.6
24	20,111	7.8	25,416	9.8	40	2.0	464	22.6	13,189	5.1	4,646	1.80	△5305	△2.1
25	20,106	7.8	25,332	9.8	52	2.6	440	21.4	12,746	4.9	4,581	1.78	△5226	△2.0
26	19,583	7.6	25,507	9.9	35	1.8	447	22.3	12,671	4.9	4,462	1.74	△5924	△2.3
27	19,662	7.7	25,495	9.9	50	2.5	427	21.3	12,458	4.9	4,434	1.73	△5833	△2.3
28	19,327	7.6	25,850	10.1	41	2.1	401	20.3	12,142	4.7	4,222	1.65	△6523	△2.5
29	18,521	7.3	26,430	10.4	27	1.5	355	18.8	11,875	4.7	4,104	1.61	△7909	△3.1
30	17,909	7.1	26,655	10.5	31	1.7	362	19.8	11,491	4.5	4,047	1.59	△8746	△3.4

注 平成30年は概数である。